

【福島市の骨粗鬆症検診について】

福島市では、X線を用いて骨の量や成分(骨密度)を測定する骨密度測定法による骨粗鬆症検診を実施しています。

◎検査方法

検査方法には DIP 法、DXA 法の 2 種類があり、実施医療機関により異なります。

<DIP 法(骨塩定量検査法)>

・手に X 線を照射し解析する方式です。

福島市内の実施医療機関の多くが DIP 法による検査を行っています。

結果が「要精密検査」となった場合には、精密検査実施医療機関を受診し、DXA 法による精密検査を受ける必要があります。

<DXA 法(二重エネルギー X 線吸収測定法)>

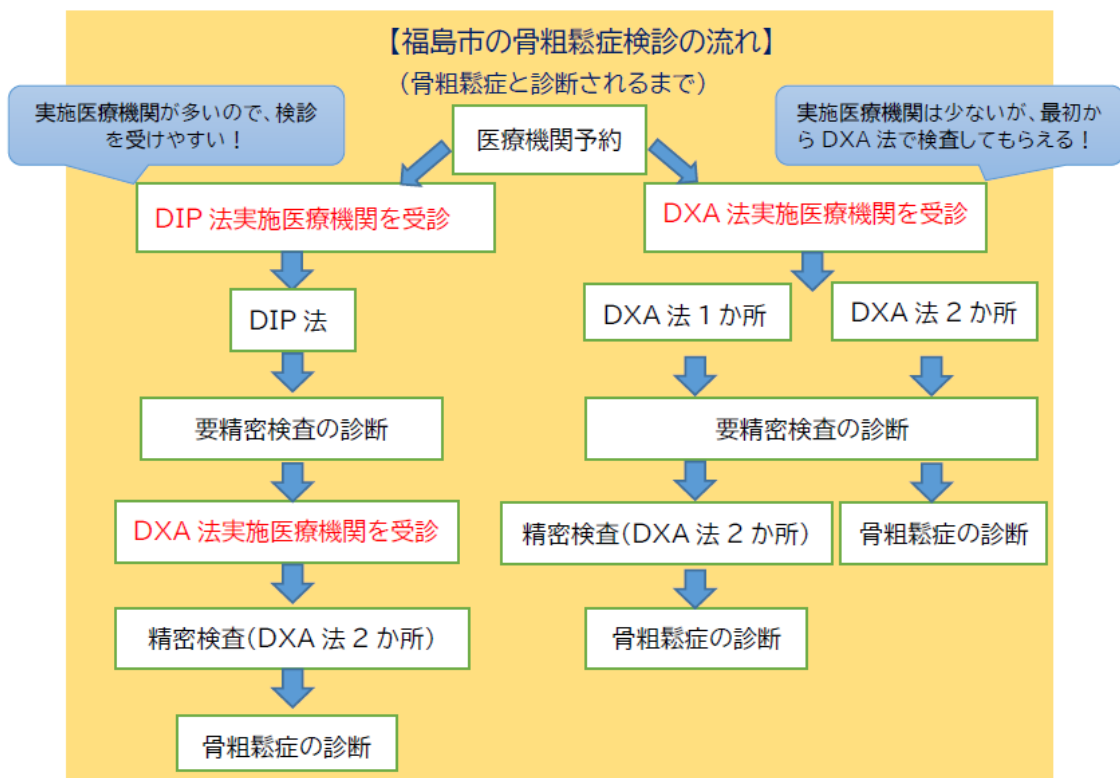
・2種類の異なるエネルギーの X 線を照射し、橈骨、大腿骨及び腰椎のいずれか又は 2 か所に骨とその他組織を区別して、その差で骨密度を測定する方法です。

DXA法を実施する医療機関は限られます。

DXA法による検査を行った場合でも、結果が「要精密検査」となった場合には、DXA 法による精密検査が再度必要である場合もあります。

※DIP 法と DXA 法のいずれでも骨粗鬆症検診の自己負担額は変わりません。

詳しくは、市民検診実施医療機関に直接お問い合わせ下さい。



◎対象者 福島市に住民登録のある年度内40、45、50、55、60、65、70歳の方

◎自己負担金 1,000円

◎実施方法 年1回 医療機関に直接予約

◎持ち物 市民検診受診券 保険証

◎骨粗鬆症とは？

骨粗鬆症とは、骨の量(骨量)が減って骨が弱くなり、骨折しやすくなる病気です。日本には約 1000 万人以上の患者さんがいるといわれており、高齢化に伴ってその数は増加傾向にあります。

◎症状

骨粗鬆症になっても、痛みはないのが普通です。しかし、転ぶなどのちょっとしたはずみで骨折しやすくなります。骨折が生じやすい部位は、背骨(脊椎の圧迫骨折)、手首の骨(橈骨遠位端骨折)、太ももの付け根の骨(大腿骨頸部骨折)などです。骨折が原因で、要介護状態となることもあります。

まずは骨粗鬆症検診を受診し、自分の骨の状態について知ることから始めましょう！

◎福島市のこれまでの骨粗鬆症検診結果について

1. 検診の受診状況の推移

(単位:人)

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
対象者数	19,933	19,584	19,584	19,584	19,584	12,794	12,884
受診者数	2,571	2,743	2,737	2,620	2,239	2,132	2,132
受診率	12.9%	14.0%	14.0%	13.4%	11.4%	16.7%	16.5%

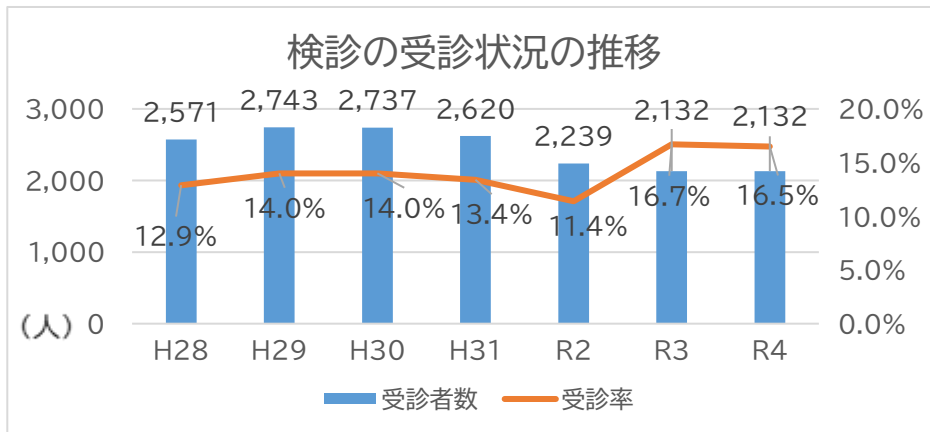
●福島市の骨粗鬆症検診の対象者:

平成17年度～令和2年度:年度末年齢が20歳、25歳、30歳、35歳、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳

令和3年度～:年度末年齢が、40歳、45歳、50歳、55歳、60歳、65歳、70歳

●対象者数について、H28年度からR2年度までの対象者は国勢調査をもとに算出。

R3年度からは県が作成したがん検診推定対象者数としている。



2. 検診で実施した検査方法の推移

(単位:人)

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度
DIP	1,409	1,557	1,534	1,479	1,263	997
DXA1か所	1,162	1,186	1,203	1,141	976	890
DXA2か所						245
DXA精検(再)※					220	180
計	2,571	2,743	2,737	2,620	2,239	2,132
DXA検査率	45.2%	43.3%	44.0%	43.6%	53.4%	61.7%

●DXA法1か所: 腰椎又は大腿骨のいずれかで測定

DXA法2か所: 腰椎又は大腿骨の両方で測定

DXA精検※: 1次検査でDIP法、2次検査(精密検査)でDXA法を実施した人数。

(令和2年度から精密検査制度を施行し、DIP法で要精検となった方については、2次医療機関に紹介し、DXA法による精密検査を実施することとした。)

3. 検診結果区分

(単位:人)

	H28年度	H29年度	H30年度	H31年度	R2年度	R3年度	R4年度
異常なし	1,861	1,903	1,873	1,774	924	825	745
要指導	467	567	548	561	578	587	572
要精検	243	273	316	285	737	720	815
計	2,571	2,743	2,737	2,620	2,239	2,132	2,132

●(1次)検診の結果による区分を示す。

●令和元年度まで:骨粗鬆症の判断基準を参考に「異常なし」「骨量減少」「骨粗鬆症」を判定した。

表は「骨量減少」を要指導、「骨粗鬆症」を要精検と置き換えている。

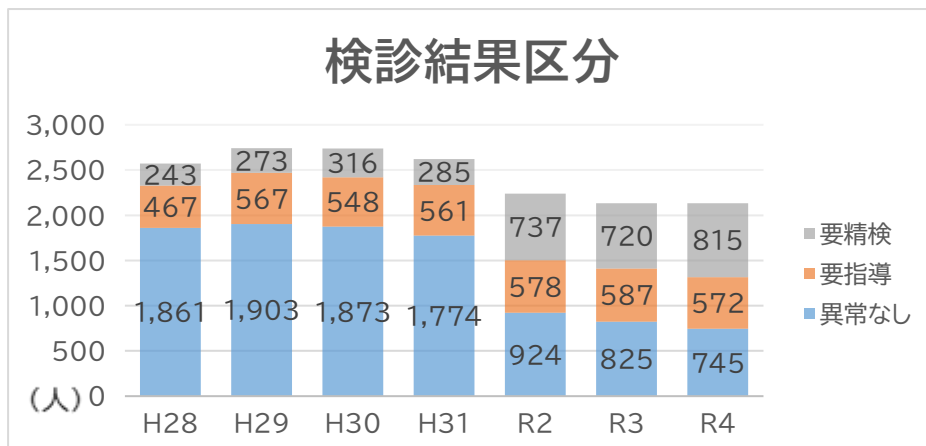
※YAM値70%以下を骨粗鬆症としていた。

令和2年度から:「骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン2015版」に従い、医療面接と骨量測定の結果から

「異常なし」「要指導」「要精検」の判定をすることとした。

※YAM値80%未満を要精検とした。

※YAM値(若年成人平均値):20~44歳の健康な女性の骨密度を100%として、現在の骨密度が何%であるかを比較した数字。



4. 年齢別にみた検診結果の状況

【R2 年度】

(単位:人)

年度末年齢	異常なし	要指導	要精検	総計	異常なし	要指導	要精検	総計
20歳	10	4	2	16	62.5%	25.0%	12.5%	100.0%
25歳	10	1		11	90.9%	9.1%	0.0%	100.0%
30歳	25	3		28	89.3%	10.7%	0.0%	100.0%
35歳	40	3	1	44	90.9%	6.8%	2.3%	100.0%
40歳	126	28	1	155	81.3%	18.1%	0.6%	100.0%
45歳	117	21	11	149	78.5%	14.1%	7.4%	100.0%
50歳	143	35	10	188	76.1%	18.6%	5.3%	100.0%
55歳	124	64	39	227	54.6%	28.2%	17.2%	100.0%
60歳	110	94	87	291	37.8%	32.3%	29.9%	100.0%
65歳	99	143	201	443	22.3%	32.3%	45.4%	100.0%
70歳	120	182	385	687	17.5%	26.5%	56.0%	100.0%
計	924	578	737	2239	41.3%	25.8%	32.9%	100.0%

【R3 年度】

(単位:人)

年度末年齢	異常なし	要指導	要精検	総計	異常なし	要指導	要精検	総計
40歳	125	34	9	168	74.4%	20.2%	5.4%	100.0%
45歳	110	26	16	152	72.4%	17.1%	10.5%	100.0%
50歳	170	35	27	232	73.3%	15.1%	11.6%	100.0%
55歳	106	62	46	214	49.5%	29.0%	21.5%	100.0%
60歳	102	101	76	279	36.6%	36.2%	27.2%	100.0%
65歳	106	162	195	463	22.9%	35.0%	42.1%	100.0%
70歳	106	167	351	624	17.0%	26.8%	56.3%	100.0%
総計	825	587	720	2132	38.7%	27.5%	33.8%	100.0%

【R4 年度】

(単位:人)

年度末年齢	異常なし	要指導	要精検	総計	異常なし	要指導	要精検	総計
40歳	98	31	10	139	70.5%	22.3%	7.2%	100.0%
45歳	85	22	8	115	73.9%	19.1%	7.0%	100.0%
50歳	137	49	31	217	63.1%	22.6%	14.3%	100.0%
55歳	131	63	43	237	55.3%	26.6%	18.1%	100.0%
60歳	90	120	119	329	27.4%	36.5%	36.2%	100.0%
65歳	100	112	269	481	20.8%	23.3%	55.9%	100.0%
70歳	104	175	335	614	16.9%	28.5%	54.6%	100.0%
総計	745	572	815	2132	34.9%	26.8%	38.2%	100.0%

5. 年齢別にみた精密検査結果

【R2 年度】

(単位:人)

年度末年齢	骨粗鬆症	骨量減少	骨粗鬆症 以外	異常を認 めず	未受診	総計
20歳	1				1	2
35歳		1				1
40歳					1	1
45歳	4	2	1		4	11
50歳	2	3	1		4	10
55歳	5	16	8		10	39
60歳	6	17	17	1	46	87
65歳	14	45	58	1	83	201
70歳	28	54	106	1	196	385
計	60	138	191	3	345	737
年度末年齢	骨粗鬆症	骨量減少	骨粗鬆症 以外	異常を認 めず	未受診	総計
20歳	50.0%	0.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
35歳	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%
40歳	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100.0%	100.0%
45歳	36.4%	18.2%	9.1%	0.0%	36.4%	100.0%
50歳	20.0%	30.0%	10.0%	0.0%	40.0%	100.0%
55歳	12.8%	41.0%	20.5%	0.0%	25.6%	100.0%
60歳	6.9%	19.5%	19.5%	1.1%	52.9%	100.0%
65歳	7.0%	22.4%	28.9%	0.5%	41.3%	100.0%
70歳	7.3%	14.0%	27.5%	0.3%	50.9%	100.0%
計	8.1%	18.7%	25.9%	0.4%	46.8%	100.0%

【R3 年度】

(単位:人)

年度末年齢	骨粗鬆症	骨量減少	骨粗鬆症 以外	異常を認 めず	未受診	総計
40歳	2	2	4		1	9
45歳		7	1		8	16
50歳	4	7	4		12	27
55歳	3	10	12		21	46
60歳	3	9	31	1	32	76
65歳	19	39	64		73	195
70歳	32	53	106		160	351
計	63	127	222	1	307	720
年度末年齢	骨粗鬆症	骨量減少	骨粗鬆症 以外	異常を認 めず	未受診	総計
40歳	22.2%	22.2%	44.4%	0.0%	11.1%	100.0%
45歳	0.0%	43.8%	6.3%	0.0%	50.0%	100.0%
50歳	14.8%	25.9%	14.8%	0.0%	44.4%	100.0%
55歳	6.5%	21.7%	26.1%	0.0%	45.7%	100.0%
60歳	3.9%	11.8%	40.8%	1.3%	42.1%	100.0%
65歳	9.7%	20.0%	32.8%	0.0%	37.4%	100.0%
70歳	9.1%	15.1%	30.2%	0.0%	45.6%	100.0%
計	8.8%	17.6%	30.8%	0.1%	42.6%	100.0%

【R4 年度】

(単位:人)

年度末年齢	骨粗鬆症	骨量減少	骨粗鬆症 以外	異常を認 めず	未受診	総計
40歳	2	1		4	3	10
45歳	2	2			4	8
50歳	4	5		6	16	31
55歳	8	12		4	19	43
60歳	30	19		10	60	119
65歳	59	42	2	16	150	269
70歳	67	62	1	36	169	335
計	172	143	3	76	421	815
年度末年齢	骨粗鬆症	骨量減少	骨粗鬆症 以外	異常を認 めず	未受診	総計
40歳	20.0%	10.0%	0.0%	40.0%	30.0%	100.0%
45歳	25.0%	25.0%	0.0%	0.0%	50.0%	100.0%
50歳	12.9%	16.1%	0.0%	19.4%	51.6%	100.0%
55歳	18.6%	27.9%	0.0%	9.3%	44.2%	100.0%
60歳	25.2%	16.0%	0.0%	8.4%	50.4%	100.0%
65歳	21.9%	15.6%	0.7%	5.9%	55.8%	100.0%
70歳	20.0%	18.5%	0.3%	10.7%	50.4%	100.0%
計	21.1%	17.5%	0.4%	9.3%	51.7%	100.0%